広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 学校運営協議会の会議録

令和５年度第２回学校運営協議会を次のとおり開催した。

<table>
<tr><td>開催日時</td><td>令和５年 10 月 23 日（月）
14 時 00 分から 15 時 20 分まで</td><td>開催場所</td><td>会議室</td></tr>
<tr><td>出席委員</td><td colspan="3">人数：７人
委員氏名（役職）
谷川　正芳氏（大崎上島町長）
森下　秀月氏（大崎上島町商工会事務局長）
坪谷ニュウエル郁子氏（東京インターナショナルスクール理事長）※オンライン参加
田頭　吉一氏（国立大学法人鹿児島大学副学長）※オンライン参加
草原　和博氏（広島大学大学院人間社会科学研究科教授）
三浦　義雄氏（PTA 会長）※オンライン参加
福嶋　一彦（校長）</td></tr>
<tr><td>会議の概要</td><td colspan="3">○自己評価シート（中間評価）の説明
本校から、学校経営計画の項目に従い、国際バカロレア、主体的・対話的で深い学び、進路指導、寮生活、働き方改革等、本校の教育活動の自己評価について説明を行った。

○各委員からの発言要旨
各委員からは、下半期の取組に係るものを含め、次のような御質問・御意見をいただいた。
（御質問）
・他の IB 校との連携はどのように行っているか。
→高知国際中高への相互訪問を通して、授業観察や単元計画の交換等を行ったり、大宮中等教育学校主催の模擬国連に生徒が参加する等、複数の IB 校と様々な形で連携をとりながら、教員間の繋がりの強化に努めている。
（御意見）
・町として、将来社会に貢献できる人材の育成に向けて全力投球したいと考えている。「教育の島」にある町として、各校が「大崎上島学」を系統立てて扱えるよう、支援したい。
・単に「おとなしく言うことを聞くばかり」なのではなく、生徒が自律して円熟した学生生活（学校や寮）を送れるようにするには、どのようにするのがよいのか、という視点で教育活動を進めてほしい。
・「地域」ができることがたくさんあると思う。支援するので頼ってほしい。
・DP では、大学の教養課程で扱う内容も含んでいる。教員は「大学のリベラルアーツを指導している」という意識を持ってほしい。
・進路指導については、「自分とは何か」「自分の探究したい研究領域は何か」を生徒に考えさせながら進めることが肝要である。
・TOK 等、DP のコア科目における生徒及び先生方の変容はどうであるか、今後期待している。
・とりわけ寮生活に係ることは、学校で抱えずどんどん保護者に投げかけてもらいたいと考えている。子どもたちを、学校・地域・業者・保護者で協力して支えていきたい。
・食生活だけでなく睡眠の状況も含め、いろいろな角度から生徒の生活支援体制を整えてもらいたい。
・働き方改革について、効率のよい学校運営をお願いしたい。県全体との比較も大事であるが、本校前年度との比較で時間外勤務の状況を見るのがよいのではないか。

以上、委員から貴重な御意見等をいただいた。本校としては、いただいた御意見をもとに、今年度の学校運営に活かしていく所存である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">次回開催予定日</td><td colspan="2">令和６年２月５日（月）</td></tr>
</table>

※　「概要」欄については，協議の経緯は簡潔にし，協議の結果が分かるように記載すること。